

# 株式会社ジェイコム港新宿

## 放送番組審議会 議事録

平成 28 年度（2016 年度）株式会社ジェイコム港新宿番組審議会は、2017 年 3 月 27 日(月)ジェイコム港新宿局にて開催された。

### 【放送番組審議会委員】

須永 達雄 様 港区商店街連合会会長  
田中 秀司 様 港区副区長  
香月 修 様 元桐朋学園大学教授 作曲家  
金井 泰子様 港区子ども会連合会会長  
福島 友子様 港区卓球連盟理事長 兼 キスポーツ財団理事 兼 港区体育協会常任理事  
山崎 英樹 様 新宿区 区政情報課長  
牛山 佳菜代様 目白大学 社会学部メディア表現学科 准教授  
関口 奈々恵様 長唄三味線 東音（杵屋三澄那 きねやさんすみな）  
黒葛原 浩 様 新宿区少年軟式野球連盟 理事長

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

### 【質疑応答・意見交換】 進行：須永会長

#### ■地域のつながり創出について

##### 委員

最近、3 人に 1 人がとなり近所のつきあいをしないという話がある、そんな社会状況の中、地域コミュニティのつながりを創出するためには JCOM が必要だと思う。近所付き合いをしたくても、できない、きっかけがわからない人もいる。JCOM の番組を使って、地域のつながりを創出してほしい。人と人をつなげる井戸端会議のような番組や、つながりカフェのようなものを作れないか。

#### ■地域活性化戦隊 サカリバンについて

##### 委員

つながり創出という意味では、サカリバンはとても面白いと思う。区内色々な地域を取材して放送すれば、つながりも広がり、もっと面白い番組になっていくと思う。

## **事業者**

現在は地域というよりも、人にクローズアップして取材対象を選定している。今後、地域で活躍されている委員のみならず、区民の皆様からの地域情報をできるだけ吸い上げることで、より多くの地域で取材を広げていきたい。

## **事業者**

区民の皆様との接触率を向上させるように、事前に撮影場所を告知したり、放送回数を増やすことも検討していきたい。

### **■ 音楽コンテンツについて**

#### **委員**

音楽は、コミュニケーションをつなぐのに一番良いと考える。音楽を聴くことを通して誰とでも友達になれる。海外でも音楽はとても良いコミュニケーションツールとなっている。プロも学生も演奏する場を求めており、両者が協力すれば様々な企画が生まれそう。JCOMでも音楽の企画に力を入れて欲しい。その際は力になりたい。

### **■ 地域コミュニティについて**

#### **委員**

地域のコミュニティをどう守っていくかが今課題となっている。新宿区は子どもの数は増えているので、その親たちを巻き込み、地域活動につなげたい。

この流れを応援してくれる番組作りをJCOMに期待している。

### **■ 若い世代のケーブルテレビへの認知について**

#### **委員**

学生、若者を巻き込む番組があるといい。テレビを持っていない学生が多い中でケーブルテレビを知らない学生も多い。説明のあったとおり、こんなに多くの面白いコンテンツ、取り組みを制作しているにも関わらず、若者に到達していない。知らせる方法を考える必要がある。大学のゼミと連携した番組はどうか。

## **事業者**

現在、携帯でコミュチンの番組が見られるアプリを開発している。アプリでは災害時に活用できる各地の定点カメラが見られるコンテンツもある。アプリで若者世代への到達率を向上したい。

## ■戦略的編成について

### 委員

港区も基本計画を作っているように、コミュニティチャンネルの編成について、何に挑戦するのか、方針を定めることが大切。行政も施策などについて懸命に広報を行っているが、なかなか情報がキャッチされていないのが現実。努力をしているが、これは永遠の課題である。

区民の間で関心があることは地域の防災、ゴミ、緑について。特に新住民は関心が高い。

また音楽については、区の催しで高輪台高校に演奏を依頼したが、

高校生たちがとても励みになったと話していた。若い人たちが打ち込める環境を皆さんと作っていききたい。

## ■日本文化の継承について

### 委員

自分が長唄三味線の世界にいる中で感じるのは、日本文化の継承者が減っていること。

大学などで邦楽系の受験生も年々減っている。新宿区は人間国宝や邦楽に関わっている人が多くいるので、子ども達に体験学習ができる場を創出したい。実際に体験の場に訪れるのは

30代・40代より上の世代、また外国人が多く、子どもの姿は少ない。スマホ世代に文化を発信したい。

自分が三味線の世界に入ったのも、小学生の頃 体験したことがきっかけだった。

さわってみただけで関心が高まる。また自分の体験教室には地域の外から来ている人多い。

地域に関心をもってもらえるような場を作ってほしい。

### 委員

音楽はみんな一緒。JCOMで企画をたてて広げていってほしい（須永、香月）

和太鼓などは大人も輪になっていく。話題の提供にもなる（田中）

### 事業者

以前 他エリアで少年野球大会の開会式の入場曲の演奏を

近隣の大学の吹奏楽部に依頼したことがある。とても盛り上がったので今後も音楽をコンテンツに取り入れていきたい。

## ■コミュニティを生む場所の創出について

### 委員

新宿区少年野球連盟も40周年を迎えた。40年前は128チームが加盟していたが、

今は約30チームとなった。趣味の多様化など、とりまく環境により仕方がないことだが

今後も連盟としては子どもを集めていきたい。

野球体験教室などを開くと、約100名と集まることは集まる。

野球に興味を持っている子どもは多い。アナウンスだけでは集まらないので

レガスマつりに連盟として参加し、参加の呼びかけなどを行っている。

今年は JCOM と一緒に清掃活動も行った。子ども達が成長する姿を見られて、とてもうれしかった。

今後も続けていきたい。清掃活動のように、JCOM には地域が交流できる場所、

地域活動の場づくりをお願いしたい。

## 委員

地域メディアが地域価値を高めてほしい。

地方のローカルラジオ局ではスタジオをカフェや休憩室として活用し、地域の交流の場を創出している。

地方だからこそできることもあるが、逆につきあいの薄い都会だからこそ必要なこと。なにかのヒントがあれば。

## 事業者

ぜひ JCOM のスタジオを地域情報の発信地にしたい。現在、港新宿エリアにコミュニティチャンネルのスタジオはないので、予算的にも、物質的にもすぐにというわけにはいかないが、いずれは地域の交流の場所をつくりたい。

### ■ 高層住宅向けの番組について

#### 委員

都心区は高層住宅 9 割。高層をターゲットにした番組を作ってみてはどうか。

例えば芝浦アイランド自治会に密着など。

#### 委員

高層住宅に住む友人は、必ず JCOM のデータ放送で天気を見てから出かけるそう。

高層階に住んでいると、地上の天気もわからないとのこと。

### ■ スポーツがもたらすコミュニケーション

#### 委員

音楽もそうだが、スポーツも言葉のいらぬコミュニケーションが取れる。

また音楽とスポーツも切り離すことはできない。競技場の雰囲気盛り上げるために使ったり、

選手達が気分を高めるのに聴いたり。

ちょうど前日に卓球の都民大会があった。40 代くらいの男性とこどものやりとりを聴いていたところ

「おじいちゃんの試合をやっているから応援しにいこう。」と話していた。

以前は子どもたちの応援を、親や祖父母がするのが当たり前の光景だったが

今はその逆。スポーツはシニアも主役になれる。孫と楽しめる。番組づくりに活かしてほしい。

## ■コミュニティチャンネルのプロモーションの徹底について

### 委員

せっかく良い番組を放送しているのに、放送時間などがわからない。  
告知やプロモーションをもっと徹底したほうがよいのでは。

### 事業者

貴重なご意見として承りました。よりプロモーションを徹底してまいります。

以上